

中山間地域にエコツーリズムの仕組みづくり

背景

地域づくりの拠点として、今やほぼ日本全国に公民館、図書館、地区センターがある。が、まだ他に何か足りない。それがエコツーリズムであると気付く。ちょうどSDGsが叫ばれている折り、もろ刃の剣とか過ぎればオーバーツーリズムと言われたいよう、特に中山間地域に着目し地域の持続可能性を支えるエコツーリズムの基本プログラムを提案したい。

方法

①自然学校

自然学校を実施し農林業体験の機会を設け、参加者には体験からの学びを身に付けてもらう。野菜や果物、稲といった中に地域の特産種を知り、自ら育てつつやがて地場農業の支え手となる期待感も生じる。

②飼育体験村

牛、豚、山羊、羊、にわとりといったいわゆる家畜に餌や水をやり、小屋の清掃を行い、必要な運動を支援するなどの体験である。身近に機会が得られない昨今、場合によっては将来に生かせる貴重な体験フィールドになると言えよう。

③婚活イベント

人口増、いや少なくとも維持は持続可能な地域づくりの根本との考えに基づき、婚活イベントを実施し世帯づくりや子産みを誘因するとともに、ご当地への移住定住を促進し、過疎対策の一助にもするというもの。適齢期の男女とも未婚率二十パーセント前後という現状改善に役立ちたい。

④SDGs体験ツアー

体験ツアーを実施し、宿泊しながら普段の暮らしの中でのSDGsの学びと実践を体験しつつその率先者になってもらう試みを繰り返す。地道な開催やプログラムの提示が続けられれば、コロナ禍の中の適切活動として着目され、リーダー人材の輩出も期待できよう。

⑤防災学級

防災学級を開催し気候変動や各地の災害例を学びつつ地域の防災の取り組みつつ、持続可能な地域づくりネットワークをつくり、司令塔としても役割発揮ができるよう努める。

結果

①持続可能な地域づくりに貢献するエコツーリズムという新しい視点を提供できる。

②世界や地球を視野に入れた持続可能な地域づくりの実践に役立つと同時にその方向に沿った人材育成に役立つ。

③実践してみようとする行政や団体によいヒントの提供になる。避難所のあり方、避難の仕方、連絡の取り方などを学び、これを身に付けられる。